

○森田 夏実

○学位 博士(看護学)聖路加看護大学

(修士)看護学 聖路加看護大学大学院看護学研究科

○教育研究業績

事項		年月	概要
教育上の能力に関する事項	教育方法の実践例	患者の体験を大切にせる授業	「成人看護学Ⅰ(慢性期)では、脊椎損傷患者(医療者)による当事者体験の授業を設定した。患者としての経験と医療者の視点を併せ持つ当事者だったため、両者の視点からの講義が効果的であった。「成人看護学Ⅰ(慢性期)、Ⅱ(急性期)」において、乳がん、前立腺がんの患者の体験を、認定NPO健康と病いの語りディベックス・ジャパンのウェブサイト公開されている患者の語りを視聴する機会を持ち、できるだけ患者(当事者)の語りに触れる機会を持った。特に臨地実習の準備のために活用した。
		研究論文購読の習慣づけ	「成人看護学Ⅰ(慢性期)」では、証拠に基づいた実践のために、研究論文を読む習慣を2年生のうちからつけるべく、授業ごとに論文を読みまとめる課題を提示した。提示する論文は、各授業コマのテーマの中で紹介する知識を補うものを選択した。研究法はまだ学習していない段階のため、質的研究を主として選び、読み物として取り組めるように工夫した。4年生の卒業研究では論文を読むということへのハードルが下がったと学生からの評価を得た。
		成人看護学実習の工夫	「成人看護学実習」では、上述の生活者の全体像モデルを枠組みとした実習記録を用いて、成人看護学の理念を示して方法まで一貫させて学習できるシステムを作成して実施した。実習施設の指導者にも、学生に行った講義を簡略化させて共有化を図り、大学・実習施設が一貫して学生の指導に当たれるように工夫した。
		気持ちを理解する重要性を体感できる授業	「健康教育技法」(履修者90名前後)で、すべての看護の基本である、気持ちを分かる・気持ちを理解するをテーマに、参加・体験型の授業を行っている。小グループで、各自の「分かってもらった経験」「分かってもらえなかった経験」を分かち合いながら自己のコミュニケーションの特徴を明らかにする。更にグループディスカッションを通して、理解されたときの気持ちと理解されなかったときの気持ち、理解促進因子と理解阻害因子を発見し明らかにしていく。当該科目の履修者は1年生で、入学間もない学生であることから、クラスメイトの理解を深めていくという効果も見られている。教員としては、グループディスカッションのプロセスを通して、話し手の目を見て反応しているかなどを参加観察し、今後の学習への情報収集の機会にもなっている。

事項			年月	概要
		生活者(患者)の全体像モデル、経過別看護の考え方の提示	H14.4～現在	<p>「成人・老年発達援助論」、「成人看護学概論」「成人看護学Ⅰ」「成人看護学Ⅱ」「成人看護学実習」において、申請者が種々の理論や臨床的特徴、知識等を統合して構築した生活者(患者)の全体像モデルおよび経過別看護に基づいて、成人看護学の全体を統合した枠組みを用いて、対象の理解及び、経過にそった看護の特徴が理解できるように工夫した。普及している看護過程では、患者を「問題を持つ人」として捉えるような仕組みになっているが、いわゆる「看護問題」「看護診断」に、「(患者が取り組むべき)課題」を含めて、『看護(介入)の焦点』という概念を導入したところが革新的であると考えている。認定看護師教育においても、この考え方を基、患者理解、看護計画の枠組みとして紹介している。</p>
		既知の知識と新規学習知識を関連させる学習	H13.4～H29.3	<p>「人間発達学／ライフステージと発達看護論」において、成人期の人々の発達の特徴(身体的・心理的社会的)を理解するために、授業受講時に学生が抱いている「おとな」のイメージや特徴をグループで話し合い、KJ法を参考にし、まとめ、示設形式で発表、お互いに評価する、という授業をおこなった。グループワークによる協力・質的研究法につながる考え方、発表の経験、各発表へのフィードバックをし、最後にクラス全員からのフィードバックを元に、グループワークによる活動の評価を行う。この授業の実施時期は、入学2か月あたりのため、友人との理解を深める効果も見られた。発表後に、成人期の発達の特徴と発達課題の知識の講義を行った。その際、グループワークでまとめられた内容と知識をつなげながら、既知のことを理論的知識で裏付けて、理解を促進できるように工夫した。「成人看護学概論」においても、該当授業数は少ないが、上記同様、グループワークと発表を行った。</p>
		学習者の潜在的な能力の存在と主体性を信じる教育理念	H2.4～現在に至る	<p>1. 授業科目および学生と日常に接する際のすべての場面において、人は主体的に生きる存在であり、未だ発揮されていない潜在能力/可能性があることを信じて、学習者、教員(臨床実習に係わるナース)すべてに対応する様に、心がけている。2. 正しい解答を先に提示せず、まず、調べる、考えるという姿勢での学習を、常に推奨し、学生に対応する(授業内、外を問わず)。3. 演習、グループワークを取り入れ、仲間で高め合うという学習方法を多く取り入れた。看護は個人では実践できない。実習等での活動を見越して、チームの力を出し合っでグループでの成果を高める意識をつけてもらう事を意図している。</p>
教育上の能力に関する大学等の評価	工科大学 成人看護学概論		H27.7	<p>評価方法:2年に1度の授業評価を大学全体で行っている。5名の教員が当該授業に入り、教授法(声の大きさ、話し方、器財の使い方等)、授業内容構成(理念や授業目標と単元の整合性等)、学生への姿勢、の3基準15項目を5点満点で評価し、工夫点等の自由記載を合わせて、平均3.8点以上で合格というシステムであった。合格との通知を受けた。</p>

事項	年月	概要
職務上の実績に関する事項	資格、免許	<p>中学校教諭1級普通免許状 教科:外国語(英語)</p> <p>S51.3.31</p>
		<p>高等学校教諭2級普通免許状 教科:外国語(英語)</p> <p>S51.3.31</p>
		<p>看護婦免許</p> <p>S54.5.25</p>
		<p>保健婦免許</p> <p>S59.5.14</p>
		<p>二級カウンセラー認定</p> <p>H3.3.23</p>
実務の経験を有する者についての特記事項	看護教育・研究指導講師	<p>H24.3～現在に至る</p> <p>各病院において看護部研究指導の講師をしている。具体的には、指導開始前に、看護研究法の講義を行い、定期的に指導日を設け、各研究グループ(部署)毎に研究計画、実施、結果/考察と論文作成、院内研究発表のプロセスを指導する。研究発表では講評を行う。外部への発表が可能なレベルの研究は、継続して抄録作成、学会発表に向けた準備のサポートを行う。成果として研究指導をした半数程度は外部発表を機会を得ている。</p>
	看護学部認定看護師教育センター 非常勤講師	<p>H29.4～現在に至る</p> <p>医科大学において認定看護師を養成するため、支援技術としてのカウンセリング、看護理論、看護過程・演習、臨地実習、ケーススタディ、ファンリテーション等の指導を行っている。研修生は上述の生活者(患者)の全体像モデルが臨地実習に有用だと自主的に採用した。ケーススタディについては、認定コースの学生全員への講義を担当し、可能な限り、単に実践報告にとどまらず、テーマに沿って分析を深めるケーススタディに近づけるように指導した。指導を担当した11名(20名中)すべてがケーススタディとして完成できた。そのうち1名は外部研究会で発表した。</p>

○著書・研究論文

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
学術論文 エンパワメント概念に基づいた保存期慢性腎臓病(CKD)患者の意思決定を支える看護(査読付き)	共著	H30.11	インターナショナルNursing Care Research 17巻4号pp.81-89	透析看護認定看護師2名に保存期にある慢性腎臓病患者に対する意思決定を支える看護について面接し、支援内容を明らかにした研究。7カテゴリが抽出された。担当:共同研究につき本人担当抽出不可,著者:西岡久美子、森田夏実、中谷信江、佐藤祐子
慢性看護実践における省察的事例研究法の実用的体系化(査読付)	共著	H29.12	高知女子大学看護学会誌43巻1号 pp.130-139	看護実践行為の中で知を生成する力であると考えられる省察的事例研究法について、心理臨床分野の実践家育性方法との比較、研究パラダイム、研究デザインについて検討して論じた。担当:共同研究につき本人担当抽出不可。SPS科研費JP26293462による。共著者:内田雅子、山本力、黒江ゆり子、小長谷百絵、木下幸代、森田夏実、段ノ上秀雄、東めぐみ、伊波早苗、長谷佳子、河口てる子
事例研究を用いた看護師育成の組織的方策の意義-省察的実践の支援に焦点をあてて-(査読付)	共著	H29.9	高知県立大学紀要第67巻pp.1-18	事例研究を発表した2組の筆頭著者および看護管理者への面接を通して看護師育成の組織的方策について看護管理者が認識している意義を課題を明らかにした。担当:共同研究につき本人担当抽出不可。SPS科研費JP26293462による。共著者:内田雅子、小長谷百絵、木下幸代、森田夏実、段ノ上秀雄、黒江ゆり子

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
医療系学生が当事者のナラティブに触れることにより得られる学び—国内に於ける文献レビュー(査読付)	共著	H29.7	日本看護学教育学会誌 27巻1号 pp.1-10	国内にの医療系学生が当事者のナラティブに触れる事から得られる学びについて30論文を分析した結果、7つの学習効果が明らかになった。担当:共同研究につき本人担当抽出不可。JSPS科研費15K115261による。共著者:瀬戸山陽子、森田夏実、射場典子
自己の実践を振り返る‘事例研究Case Study Research’の在り方—心理臨床学における思索と方法論に学ぶ—	共著	H29.5	日本慢性看護学会誌11巻1号 pp.46-51	第9回日本慢性看護学会交流集会での心理臨床学における事例検討に関する講演内容を紹介し、看護に於ける事例研究の在り方を検討した。担当:共同研究につき本人担当抽出不可。SPS科研費JP26293462による。共著者:黒江ゆり子、山本力、内田雅子、木下幸代、小長谷百絵、伊波早苗、東めみ、森田夏実、長谷桂子、段ノ上秀雄、川口てる子
慢性看護実践における事例研究の困難と価値—事例研究法の意義に焦点をあてて—(査読付)	共著	H29.3	高知県立大学紀要看護学部編66巻pp.1-12	担当:共同研究につき本人担当抽出不可。SPS科研費JP26293462による。共著者:内田雅子、小長谷百絵、木下幸代、森田夏実、段ノ上秀雄、黒江ゆり子
看護実践における事例研究の困難と意義(査読付)	共著	H28	上智大学総合人間科学部看護学紀要No.2pp.23-29	事例研究を実施する上での困難と意義を、事例研究発表に至った著者への面接を通して明らかにした研究である。担当:共同研究につき本人担当抽出不可。JSPS科研費JP26293462による。共著者:小長谷百絵、内田雅子、古江知子、木下幸代、森田夏実、段ノ上秀雄、黒江ゆり子
”経験”と”気持ち”	単著	H27	聖路加看護学会誌18巻2号pp.23-29	第19回聖路加看護学会学術大会の大会長講の論文である。人の経験と気持ちとの関連性を研究成果に基づいて論じた。
報告書 患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築を評価	共著	H30	平成27~29年度科学研究費助成事業研究成果報告書(基盤C)	患者が病いと共に生きる経験を尊重できる医療者育成のため、健康と病いの体験のデータベースのうち4種類のVTRナラティブ教材を作成し、「患者の病いの体験の語りを用いた医療者教育プログラム」を開発した。プログラム参加者の成果は、患者・家族の病い体験を実感し、感じ方の多様性を発等であった。開発したVTR教材と教育プログラムはウェブサイトから利用でき、内容・使い勝手共に良い評価を得た。担当:研究代表者として全てにかかわり執筆した。著者:森田夏実(研究代表者)、瀬戸山陽子、和田恵美子(研究分担者)
患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築を評価	共著	H29.3	平成28年度科学研究費助成事業実施状況報告書(基盤C)	教育プログラムのねらいに基づいて、病気の診断まで2年以上かかった前立腺がんの患者、患者本人の認知症の体験および家族の経験のVTR教材を作成した。これらを使用したパイロットスタディは7件実施し評価した。患者・家族の病い体験の認識を新たにし、一人の患者の病い体験をじっくりと視聴することにより病いの軌跡に対する多様な気づきが得られ、学生間で共有できた。概ね本教育プログラムのねらいが達成されたと評価した。担当:研究代表者として全てにかかわり執筆した。著者:森田夏実(研究代表者)、瀬戸山陽子、和田恵美子(研究分担者)
患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築を評価	共著	H28.3	平成27年度科学研究費助成事業研究成果報告書(基盤C)	ナラティブ教材を用いた教育プログラムのねらいを「患者を病いと共に社会生活の中で生きている1人を全体的な存在として捉えることができること」とし、DIPEX-Japanのデータベース(乳がんの語りアーカイブ49名分)を検討、ねらいに適した乳がん患者1名を選択した。患者の全体像がわかる7箇所を抽出、約20分のVTR教材を作成し授業展開案を提示した。担当:研究代表者として全てにかかわり執筆した。著者:森田夏実(研究代表者)、瀬戸山陽子、和田恵美子(研究分担者)

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
学会発表 Educational use in Japan	—	H30.11	Dipex International Meetig in 2018 (Netherlands)	過去1年間における認定NPO法人健康と病いの語りディベックス・ジャパンの教育的活用についての概要、および医療施設における研修会の成果について報告した。担当：共同研究につき本院担当部分抽出不可能。共同研究者：森田夏実、射場典子、佐久間(佐藤)りか、澤田明子、瀬戸山陽子、別府宏暉 (JSPS課題番号15K11526)
一般心理学講義におけるDIPEXの活用：大学教育における患者インタビュー動画教材の有用性	—	H30.8	第27回日本看護学教育学会学術集会(横浜)講演集p.123	心理学講義でディベックス・ジャパンの語りデータベースから開発した認知症患者本人及び家族の語り用いた授業の成果についての成果報告。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：伊藤武彦、森田夏実、射場典子 (JSPS課題番号15K11526)
患者と医療者の協働による医療コミュニケーション教材の開発	—	H30.8	第50回日本医学教育学会大会(東京)医学教育49巻suppl.p.104	ディベックス・ジャパンの患者の語りデータベースを教材とし平成28年度の活用の実際と評価についての教育報告。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：射場典子、森田夏実、青木昭子
自己管理良好な血液透析患者の「病いと健康管理行動の軌跡」および影響要因	—	H30.7	第29回日本サイコネフオロジー研究会(東京)抄録集p.76	自己管理良好な透析歴5年の男性血液透析患者の糖尿病発症から透析導入から現在に至る「病いと健康管理行動の軌跡」について、患者と共に振り返り、健康管理行動に影響した要因とともに明らかにした事例研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：木村菜穂子、森田夏実、喜瀬はるみ
ディベックス・ジャパン患者の語りデータベースを教育として活用した教育事例	—	H29.8	第49回日本医学教育学会大会、医学教育48巻Suppl. P.138	ディベックス・ジャパンの患者の語りデータベースを教材とし平成28年度の活用の実際と評価についての教育報告。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：射場典子、森田夏実、青木昭子
前立腺がん治療後の後遺症を受容し、日常生活を再生するプロセス：DIPEX-Japan“前立腺がんの語り”を用いた二次分析	—	H29.1	第31回日本がん看護学会学術集会(高知)日本がん看護学会誌30巻Suppl.p.154	ディベックス・ジャパンが有している前立腺がん患者の語りデータベースを用いて、治療後の後遺症を受容し日常生活を再生するプロセスを明らかにした研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：仙波美幸、森田夏実
有訴率から見た男女別加齢関連・非関連症状の変化と抗加齢ドッグ受診者の特徴	—	H29.1	第46回日本総合健診学会大会(東京)総合健診44巻1号p.330	抗加齢ドッグ受信者の特徴について、有訴率と加齢/非加齢症状の関連性を調査した研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：尾形珠恵、森田夏実、五十嵐千代、鈴木絵里、高松千織、菊地恵親子、山田千積、椎名豊、岸本憲明、西崎泰弘
Development of Educational Program Using Patient Narratives in DIPEX-Japan as a Trigger Film (DIPEX-Japanが有している患者の語りを用いた教育プログラムの開発)	—	H28.11	International Conrence on Narrative of Health and Illness (Spain)	乳がん患者の語りを用いたVTR教材開発および教育プログラムの開発について報告した。共同研究者：森田夏実、他12名「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築と評価」と題する研究で開発したで、医療者教育プログラムを使用 (JSPS課題番号15K11526) 国際会議
患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者教育プログラム作成：DIPEX-Japan乳がんの語りを用いて	—	H28.8	第26回日本看護学教育学会学術集会(東京)日本看護学教育学会誌26巻学術集講演集p.147	医療福祉専門家と患者体験者が参画して開発した、患者の病い体験を尊重できる医療者教育プログラムの開発過程を報告した。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能共同研究者：森田夏実、射場典子、瀬戸山陽子、和田恵美子、佐藤幹代、仙波美幸 (JSPS課題番号15K11526)

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
映像・音声・テキストで視聴できる「患者の語り」を教材とした授業の実践：活用目的に焦点を当てて	—	H28.8	第26回日本看護学教育学会学術集会(東京)日本看護学教育学会誌26巻学術集講演集p.147	ディベックス・ジャパンのウェブサイトにて公開されている患者の語り、どのような目的の授業に活用されているかを分析した研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：射場典子、森田夏実
手術以外の治療法を受けた患者が納得して前立腺がんとともに生きるプロセス：DIPEx-Japan「前立腺がんの語り」を用いた二次分析	—	H28.3	第30回日本がん看護学会学術集会(幕張)日本がん看護学会誌30巻Suppl.p.154	ディベックス・ジャパンが有している前立腺がん患者の語りデータベースから、手術以外の治療法を選択した患者の語りを分析し、がんと共に生きるプロセスを明らかにした研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：仙波美幸、森田夏実
訪問看護師が看取り後のグリーフケアとして家族介護者の語りを聞くことの意味	—	H27.10	第5回日本在宅看護学会学術集会(東京)日本在宅看護学会誌 4巻1号p.71	訪問看護師が、対象者の遺族のグリーフケアとして、家族介護者の語りを聞くことの意味を、対象者との対話を分析した事例研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：齊田良恵、森田夏実
前立腺全摘除術後の後遺症が患者の日常生活に与える影響と気持ちの特徴：DIPEx-Japan「前立腺がんの語り」を用いた二次分析	—	H27.9	第22回日本排尿機能学会学術大会,日本排尿機能学会誌26巻1号p.224	ディベックス・ジャパンが有している前立腺がん患者の語りデータベースから、前立腺全摘除術後の後遺症が、かんじゃお日常生活に与える影響と気持ちを明らかにした研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：仙波美幸、森田夏実
「DIPEx-Japan乳がんの語り」の映像からリハビリテーション看護において学生はどのような支援を学んだか	—	H27.8	第24回日本看護学教育学会学術集会(徳島)日本看護学教育学会誌26巻学術集講演集p.174	ディベックス・ジャパンが公開している「乳がん患者の語り」を用いた授業で、学んだことのレポートの内容を分析した研究。担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：佐藤幹代、高橋奈津子、森田夏実、仙波美幸、城丸瑞恵
Development of New Educational Program Using Patients' Narratives in DIPEx-Japan (DIPEx-Japanが有している患者の語りをを用いた新しい教育プログラムの開発)	—	H27.6	International Congress Illness Narratives in Practice (Germany)	ディベックス・ジャパンが有する患者の語りのデータベースを用いたVTR教材及び教育プログラムの開発のプロセスを報告した。(JSPS科研費15K11526による)担当：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。共同研究者：森田夏実、他21名 国際会議
インフォメーション・エクステンション／交流セッション 映像と音声で伝える「慢性の痛みをもつ人とその家族の語り」データベースを用いた看護教育への活用可能性を探る	共著	H30.8	第28回日本看護教育学会(横浜)講演集p.94	慢性疼痛を経験する患者および家族の語りのウェブサイトを紹介し、看護教育における活用可能性について、参加者と討議する企画。企画：佐藤幹代、高橋奈津子、森田夏実、瀬戸山陽子、射場典子(JSPS科研費JP26293490)
健康と病いの語り(DIPEx-Japan)の患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか Part 7—患者の病いを尊重できる医療者の育成のための教育プログラムを考える—	共著	H30.8	第28回日本看護教育学会(横浜)講演集p.92	「乳がんの語り」「前立腺がんの語り」「認知症の語り」に加え、DIPExの協力を得てIBDネットワークの当事者が作成した「潰瘍性大腸炎の語り」の中から、実際に医療者との関係について語られている新たなビデオ教材を紹介し看護師(医療者)と患者・家族とのコミュニケーションのあり方や能力の向上を目指す具体的な方法について意見交換を行う。代表：森田夏実、他7名(JSPS科研費15K11526による)
慢性の痛みをもつ人と家族の語りから創造する看護	共著	H30	第12回日本慢性看護学会学術集会(東京)講演集p.A78	慢性の痛みを持つ患者および家族へインタビューVTRが、看護教育でどのような活用可能があるか参加者と討議する企画。共同企画：佐藤幹代、高橋奈津子、射場典子、森田夏実、瀬戸山陽子(JSPS科研費JP26293490)

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
健康と病いの語り(DIPEx-Japan)の患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか Part 6ー医療者と患者・家族のより良いコミュニケーション能力獲得を目指した授業展開ー	共著	H29.8	第27回日本看護教育学会学術集会(沖縄)講演集p.105	「乳がんの語り」「前立腺がんの語り」「認知症の語り」等の中から、実際に医療者との関係について語られている場面を抽出して教材化した。これらのビデオ教材を活用して、看護師(医療者)と患者・家族とのかわりに関するコミュニケーションのあり方や能力の向上を目指すプログラムの模擬授業を行った。代表: 森田夏実、他7名(JSPS科研費15K11526による)
健康と病いの語りデータベース(DIPEx-Japan)の卒業研究・修士課程研究法演習における活用の実際と可能性	共著	H28.12	第36回日本看護科学学会学術集会講演集p.147	健康と病いの語りデータベースを卒業研究、修士課程の学習に活用した例を紹介し、患者の語りを研究・学習に活用することに関する議論を行った。代表: 森田夏実、他4名(JSPS科研費15K11526による)
患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか Part 5ー健康と病いの語り(DIPEx-Japan)の教育的活用の実際ー	共著	H28.8	第26回日本看護教育学会(東京)講演集p.105	実際に様々な学生や受講者に対して行われた授業・研修などの活用例を報告し、患者の語りの教育的活用やプログラム作成に関する発展的・独創的な意見交換を行った。代表: 射場典子、森田夏実、他6名「患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築と評価」と題する研究で開発したで、医療者教育プログラムを使用(課題番号15K11526)。
患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶか Part 4ー健康と病いの語り(DIPEx-Japan)を用いた医療者教育プログラム作成ー	共著	H28.8	第26回日本看護教育学会(東京)講演集p.133	科研による教育プログラムの開発の経過報告を行い、作成した患者の語りの映像を視聴してプログラムの一部を模擬授業を行った。(JSPS科研費15K11526による)代表: 森田夏実、他7名
「患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶかPart3ー健康と病いの語りデータベース(DIPEx-Japan)の教育的活用ー」	共著	H28.8	第25回日本看護教育学会(徳島)講演集p.106	DIPEx-Japanの乳がんの体験談サイトには掲載されていない乳がん患者の語りを教育用に編集しVTR教材を用いて、参加者が学習者として語りを視聴する“体験型模擬学習セッション”の実施。代表: 森田夏実、他5名(JSPS科研費15K11526による)
心理臨床学に学ぶ事例研究法 その2ー慢性看護実践におけるretrospectiveな事例研究の位置づけと具体化ー	共著	H28.7	第10回慢性看護学会学術集会(東京)	慢性看護実践を省察して振り返る事例研究法について、事例を示しながら検討した。企画: 内田雅子、小長谷百絵、森田夏実、伊波早苗、川口てる子、木下幸代、段ノ上秀雄、長谷桂子、東めぐみ、黒江ゆり子、
「患者の語り(ナラティブ)から何を学ぶかPart2ー健康と病いの語りデータベース(DIPEx-Japan)の教育的活用ー」	共著	H27.8	第24回日本看護教育学会(幕張)	英国で始まった語りデータベースを元に日本に於ける患者の語りデータベース(DIPEx-Japan)の紹介と、患者の語りから学ぶ意義について模索する企画。代表: 森田夏実、他10名(JSPS科研費15K11526による)
臨床心理学における事例研究法に学ぶ。自己の実践を振り返る事例研究の考え方と方法	共著	H27.7	第9回慢性看護学会学術集会(大阪医科大学)慢性看護学会誌9巻1号p.A44	臨床心理学における事例研究法を学び、慢性看護実践を振り返る事例研究法の考え方および方法を検討した。共同企画: 黒江ゆり子、小長谷百絵、森田夏実、伊波早苗、川口てる子、木下幸代、段ノ上秀雄、長谷桂子、東めぐみ、内田雅子
シンポジウム 第5回教育ワークショップ: 患者の語り(ナラティブ)が医療者教育を変える	—	H29.10	東京・虎ノ門(上地ビル)	ウェブサイトでは未公開の、今回新たに教材として編集したさまざまな語りの視聴を通して、患者と医療者のコミュニケーションや両者の視点の違いについて考え、学ぶことを目的とし、ディスカッションした。主催: JSPS科研費15K11526(代表者 森田夏実)共催: 認定NPO法人健康と病いの語りディベックスジャパン

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	年度	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
第4回教育ワークショップ:患者の語り(ナラティブ)が医療者教育を変える	—	H28.10	東京工科大学蒲田キャンパス	医療者教育に於けるナラティブの意義についての基調講演を受け、教育への活用を意図して編集したVTRを用いて活用の実際について議論した。主催:認定NPO法人健康と病いの語りディベックスジャパン、共催:JSPS科研費15K11526(代表者 森田夏実)および、竹内登美子科研
第3回教育ワークショップ:患者の語り(ナラティブ)が医療者教育を変える	—	H27.10	東京工科大学蒲田キャンパス	「現代の学生気質と医療者教育」「医療現場で求められること一患者体験を通して」の講演を元に、者と医療者のコミュニケーションに関する 授業・教育プログラムの検討企画代表:森田夏実(JSPS科研費15K11526による)
解説	単	H28.10	Expert Nurse 32巻13号 pp.71-76	筆者の研究「血液透析療法を受けながら生活している慢性腎不全患者の“気持ち”の構造」をもとに、臨床で活用しやすいように解説した。
.web連載(全48回)今更聞けないヒヤリハット,第1回酸素療法中の歩行訓練時に、患者さんのSpO2が低下したのはなぜ?第2回CAF後の採血で異常値が出たのはなぜ?等	共著	H24.8~H27.7	Nurse. Cloud(現在は閉鎖した)	重大な医療事故には至らなかったものの、一歩間違えれば命に直結する「ヒヤリ・ハット事例」。実際に起こった事例をもとに、何が間違いだったのか、どうすればよかったのかを月2回WEB上でクイズ形式で解説した。共同執筆:森田夏実、虎の門病院看護部
競争的資金の獲得	—	H27~H29	科学研究費助成事業基盤研究(C)	健康と病いの語りディベックス・スジャパンが有している患者・家族の語りを用いて、研究者(医療関係者)と患者経験者が参画したチームで、患者の病い体験を尊重できる医療者育成のための教育プログラムを開発し、ウェブ上で公開し、教育に資することを目的とした研究課題番号:15K11526,研究代表者:森田夏実,配当額:4,810千円